

学位被授与者氏名	肖 西汀 (しょう せいてい)
論文題目	三島中洲研究
論文審査結果の要旨	<p>二松学舎の創立者として、三島中洲の生涯は幕末・明治・大正と3つの時代に亘り、その生涯経歴が複雑で、交遊が広く、著述も多かった。本研究は、上記の5章を通して、三島中洲の出身、仕途、学術などの面から、彼の思想を全体的に研究し、その内容を細かく分析した。中洲の思想は朱子学から折衷学、そして陽明学への「三変」で、藩職と学問研究の過程で、批判的に経世实用思想と功利主義思潮を吸収し、自分なりの陽明学観を形成した。本研究はその変化の軌跡をたどり、日本儒学の近世的道德倫理主義から近代的功利主義への変化の中に置いて中洲の陽明学と義利合一論を把握できた。</p> <p>ただ、本研究は三島中洲本人だけに集中し、中洲を中心とする二松学舎の陽明学派に触れていないことから、それに関する研究は今後の研究課題になるのだろう。なお、本人は日本語のネイティブではないので、論文には不正確な日本語表現が散見しており、改正する必要がある。</p> <p>令和2年2月18日(金)、北九州市立大学北方キャンパス3号館320教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>